



第191号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 市川武彦
 編集人 会報編集委員
 長 齋藤章子
 印刷所 須坂新聞社

研修について思うこと

竹内 修

「研修」について何か書いて下さいとの依頼があった。さっそく「研修」を広辞苑で調べると、「学問や技芸などを磨き修めること」とあった。どうもこういうことが苦手な私には大変難しい依頼である。断るわけにもいかず引き受けたもので、斜め読みしていただきたい。

第一には「させられる研修よりする研修」まずは、これだろう。

当たり前のことだが、させられる研修は、実に効率と吸収率が悪く身につかないものである。だから、広辞苑の解説に、「自ら求めて」と言う言葉を付け加える必要があるようにさえ思える。しかし、これは研修が嫌いな私の様な者の言う言い訳なのかもしれない。「させられる研修」でも時には驚く程の成果が上がることもある。「させられる研修」も大事なものと痛感

した経験もある。まさに「啐啄同時」の時であったのだと思う。

第二には「研修の場は何処にでもある。」これも良く言われることである。先日ある先生の授業をちらりと見る機会があった。

音読の指導のため、先に読み子どもたちが後から続いて読んでいた。どこにでもある授業風景だが、一寸工夫があった。その先生は、黒板の前の教卓を取り去って、何も無い状態の黒板の前で椅子に座り、私のような大声でなく、適切な音量で心を込めて読んでおられた。子どもたちの心が先生に集中し、持っている本に目がいき、本当に真剣さが肌に感じるように伝わって来た。前にいる先生は、先生というより、舞台上に立っている役者のようになっている。

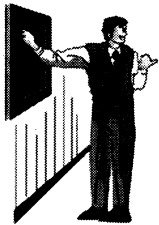
後でどのように考えて行っていたのか聞くと、深く考え

て行っていたわけではなく、何気なく「その方がよいかな」と思っただけのことであった。

直ぐにでも真似できる事ではないか。こういう身近な所に研修の場があるのだなと思っ

た。遠く県外の先進校と言われるところに行く研修もあるし、大学の先生や実力者の講演を聞く研修もある。専門書を読むのも研修だ。前の例のように身近な所にも研修のチャンスはある。

お隣さんから学ぶ研修は、簡単で直ぐに役立つ内容が多い。こういう研修をもっと大切にしたいと思うのだがどうだろうか。



(仁礼小)

本校の中核活動

花壇作り

白い花

豊洲小学校

「わあ、とってもきれいな花壇を作りました。」

「花のにおいが、とってもいいにおいでした。」

「わたしは、花を見るだけで、しよくぶつと話せるような気がしました。」

「花をかざって見るだけで、心が落ち着きます。」

わたしは、頭の中が白い花のことでいっぱい。

心の中が、ぱつと明るくなります。よく見れば、白い所に、黄色がたしてあるように見えました。

わたしは、こんなきれいな花はじめてかもしれないなあと思いました。

学級のSさんの文章です。

一枝の花をじっと見つめただけで、このような言葉が心の中をめぐってぐるその感性、自分にはとてもまねのできないところだ。

日頃、元氣いっぱい活動している子どもたちですが、時にはふと立ち止まって、花に心を寄せてみるのもいいかなと思ひ、ささやかな花壇作りを始めてみました。

昨年場合は、教室前にちょうどよい空き地があり、子どもたちと開墾して臨時の花壇ができました。

5月、その花壇からとれた種をまきながら、子どもたちに何気なく提案してみました。

「今年は、学校の外に花壇を作ってみないかい？」



実のところあまりよい反応はないのではないかと思っていたのですが、これが予想に反して、「やるやるっ！」という大ノリのこたえでした。

学校から百五十mほどの所に場所を決め、さあ花壇作りです。しかし、これが子どもたちにとっては大変なことでも、土を運び、堆肥を運び、ギラギラの太陽の下、壮絶な仕事になりました。そうして正に汗の結晶で、小さな花壇が出来上がり、育ててきた苗を植えることができました。

花壇には「ふれあい花だん」という名前がつけました。A君の、「いろいろな人とふれあえるという願いがあるからです。」という発言がクラスの仲間の心に響いたようです。

(海沼 章)

教育会だより

- 7・28 常任委員・資料施設委員で旧教育会館の土蔵の整理
- 7・30～8・10 各種同好会の夏期講習会開催
- 8・23 教育会講演会(於メセナホール)
- 8 〇講師 中山 譲先生(つながりあそび、うた研究所主任)
- 8 〇演題 「とっておきの一人」(講演とコンサート)
- 9・5 第2回研究小委員会
- 9・18 第4回同好会
- 9・20 第5回同好会
- 9・20 第5回代議員会
- 10・2 第3回研究小委員会
- 10・6 上高井教育研究集会(於相森中学校)
- 10・10 第5回常任委員会
- 10・11 第6回同好会
- 10・16 女性・青年教師研究大会(於市公民館)
- 10・22 上高井教育会報第191号発行

学社融合と

「総合的な学習の時間」への試み

「開かれた学校」生涯学習フォーラムより

須坂小学校

七月七日(土)に市教育委員会・信濃教育会・上高井教育会の主催によるフォーラムが須坂小学校、小山小学校、須坂市民館(旭ヶ丘小学校・須坂中学校の公開授業)、須坂園芸高校農園を会場に行なわれました。県内外から六百人を越える方々においていただきました。

現在、全ての学級の児童数は三十人以下です。さらなる人間関係の豊かさを求めて、研究テーマを「豊かな心で、地域とともに歩む子どもへの育成」(異年齢集団での活動を通して)としました。

一、なぜ継続なのか

ここでは、須坂小学校が何を目指して取り組んできたかその一端を紹介させていただきます。

二、なぜ継続なのか

本校では、特活の中核活動を基として教科の学習を子どもとの追究に合わせて展開しようとする「総合学習」に取り組んできました。大きな成果は、コミュニケーション能力の習得です。追究の過程で様々な知識を知り、複雑な技能を身につけたいと願う時、子どもたちは色々な話型を用いて自分が知りたいことを熱心に聞きます。また、相手に自分の考えを伝えようと工夫を懲らして話します。異年齢であればあるほど力が必要でした。

「総合的な学習の時間」の百十時間の内三十時間を縦割りにしています。原則として月の第二・四金曜日の五・六校時を設定しています。地域から一・二回の講師を呼んでの学習ではなく、保護者とともに継続的に活動することで人間関係を作りたい、ともに活動した喜びを味わいたいと願うての継続した活動です。

三、なぜ「総合的な学習の時間」なのか
地域の諸団体の活動と地域の課題に取り組む「総合的な学習の時間」が同時に行なわれることで互いのメリットとなる活動であることや、活動ありきではなく教科の発展としてしっかりと評価したいと願うこの時間に設定しました。

評価は、子ども一人一人の課題解決のためにどんな支援

をしたら良いか考察するために行なうこととしました。

本年度、そば栽培・押し花・川の生き物・蚕・昔探検・ビデオドラマ・新聞記者・ボランティア・インターンシップの九つの講座を設けました。

当日は、高校生・中学生とともに楽しく会話し土作りをする姿や講師の先生に積極的

一緒にいる喜び、共に進む楽しみ

一緒にいる喜び、共に進む楽しみ

旭ヶ丘小学校

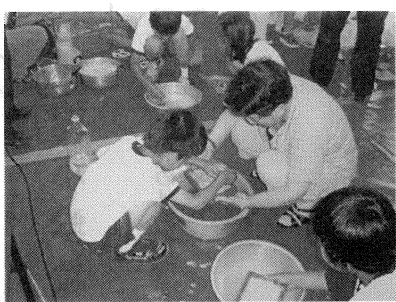
昨年、開校三十周年記念バザーに、学級で「牛乳パックリサイクル手漕ぎはがき」をメインにしたお店「二敬いろいろマーケット」を出店したことがきっかけとなり「すこやかふれあい広場」の皆さんとの交流が始まった。七月の生涯学習フォーラムでの公開授業は、その一通過点である。

「すこやか……」では、地元の高齢者の皆さんが週一回集まって工作をしたり運動したりしている。

広場の皆さんと初めて会うとき、子どもたちは緊張していた。「ちょっとドキドキする……」こんな言葉に期待とちよっぴりの心配がみえてきた。始めはぎこちなく接していた子どもたちだが、活動を通して生き生きと動き出し、回を重ねることに打ち解けていった。初めての交流会の後、子どもたちは「また、一緒に何かやりたい」と願う、またそれが広場の皆さんの思いでもあり、今日まで交流が続いているのである。

子どもたちが「広場」の皆さんとやりたいことは限りなくある。しかし、やりたいことをただやっているだけでは「活動ありき」のみになる。そうならないために「授業の成立」↓個

の願い↓交流↓振り返り↓次の活動の決めだし↓活動↓新たな個の願い」とつなげていくなかで、一人ひとりの育ちをみていこう、と考えた。活動の内容や子どもたちの様子など詳細については、フォーラムのとき指導案として配布させて戴いたのでここでは割愛する。今までみんなで行っている行ってきたが、広場の方々の強い要望のあった合作貼り絵作りは、進めていくなかでいろいろな思いが膨らみ、あぁでもないこうでもないと言いつつ合いながら取り組み、それぞれのグループが成就感をもって作り上げたものとなった。一連の活動を通して、子どもたちには、一言で言うならば、他の活動ではなかなか得られないコミュニケーションする力がつきつつあるのではないかと思われる。



子どもたちは、交流日を楽しみにしている。道で会ったり地域のお祭りで会ったりすると

挨拶を交わし話をし、お宅に遊びに行かせていただくなどしている。最近の交流会ではN児とSさんが「わたしね、リレーの選手になったの。頑張るんだ。運動会に来てね。」「そう、リレーの選手になったの。よかったねえ。応援にこなぐちやね。」と話しているのを聞いた。ごく自然な姿である。広場の皆さんも交流のある日をとて楽しんでおられる。交流がある日は出席率がよいとのこと。何をやっても喜んでおられる。「子どもっていいねえ。一緒にいるだけで楽しいよ」「子どもってすごいねえ」「ここに来ると元気が出るよ」などの声を聞く。また一方、今までの活動にかかわってきたお母さんは「私達母親も、活動と一緒に参加させていただくことで忘れかけていた感情を思い出させてもらえたようにも思いました。どちらか一方から教えたり伝えたりするのはなく共に交流することで心を学び心を育てお互い何かをうめあえ交換できるんです」と感想を寄せた。

地域の高齢者・保護者・子ども・教師それぞれが互いにかかわりあうことで、心を開き言葉を交わし、楽しいひとときを共有し喜びを感じ合い明日への活力をもらいあっている。ここにこの活動のよさがあるのではないかと感じている。

(望月千恵子)

日々

研鑽

同好会 夏季研修で学んだこと

カウンセリング

鈴木左代子

カウンセリング同好会ではこの夏、逗子市にお住まいの中村喜久子先生をお招きしてカウンセリングについて講演をしていただきました。

まず、中村先生の紹介をさせていただきますが、現在、「ミニカウンセリングで学会会長」「長野県ミニカウンセリングで学会スパーバイザー」「日本カウンセリング学会会員」でいらっしゃり、全国各地でカウンセラ―養成にあたられています。また、長野県教育センターの教育相談講座の講師として来県されて以来、二十年以上にわたって「長野県ミニカウンセリングで学会」を中心に、教育相談カウンセリングのご指導・ご講演をなさっています。さらに、著書として『カウンセリングの学び方』『私のカウンセリング』『いっばいの清水を求めて』『カウンセリングにおけるカウンセラ―の経験クライエントの経験』（以上道和本書院発行）などもあげられ活躍のほどをうかがうことができます。

さて、講演内容は、カウンセラ―になったばかりの頃に出会った、あるお母さん（子どもさんが不登校）の話、母子分離不安に悩む、ある親子の話、不登校の子どもさんのかかえ、自分は冷たい人間なのではないかと悩む、あるお母さんの話等々、多岐にわたりましたが、私が最も心に残ったのは、不登校の中学生の話です。

「もう来ないで」と言われて、自分だったら「また来るから」と、自分の気持ちをぶつけてしまおうと思いがちです。でも、中村先生は彼女の気持ちを受け入れて、言葉で返していらっしゃり、自分にとっては忘れられない一言となりました。

初任者研修で学んだこと

大内奈美子

教員になることが決まったのは、私としては予想外の出来事でした。何の準備も終わらないうちに、私は中学校の先生になってしまいました。正直な気持ち、嬉しい部分よりも、不安なところが大半を占めていたのです。

そんな状態でスタートした学校生活は、まさしく混乱の日々でした。右も左も分らない土地で、知らない人達に囲まれての仕事は思った以上に厳しく、自分の力量の無さに私は教員になった事を早々に後悔しました。こんなに心配が必要とされる職場には、私のような性格の人間は合っていない。何で私はここに居るのかな。自分を必要としてくれている生徒なんているだろうか。自信の無さが不安に追い打ちをかけて、苦しい毎日が続きました。

日々の言動を見返す、良い夏季研修となりました。ありがとうございました。ありがとうございました。

(栗ガ丘小)



本校の宝 登竜門

常盤中学校

本校には、人としての在り方を示したり、教育の指針となるべき掲額がいくつもある。『自主高潔』は職員玄関前に、『切磋琢磨』は体育館に、『やがて世の光とならん』は第一音楽室前にある。そして、昇降口頭上には石に刻まれた『登竜門』がある。終戦、昭和二十年、新学制により開校発足した常盤中学校も本年で五十年余の歳月を重ねた。その間、校舎、中庭、体育館等々は様変わりを見せているが、昇降口頭上の『登竜門』の精神は脈々と受け継がれている。



「登竜門」(昭和41年 学校長 徳永隆寿 書)

昭和二十年、新学制により開校発足した常盤中学校も本年で五十年余の歳月を重ねた。その間、校舎、中庭、体育館等々は様変わりを見せているが、昇降口頭上の『登竜門』の精神は脈々と受け継がれている。



昇降口頭上の「登竜門」(平成元年2月 学校長 赤堀昭三 書)

また、中国の故事には、「画竜点睛」という言葉がある。画に龍をすべって描き終えて最後に瞳を描き入れたところ、龍が生命を得て、天に向かって飛び立ったというのである。ものごとの中心になるような大切な部分を、最後に加えて完全に仕上げること。転じて、最後の仕上げを立派に成し遂げるといふ意味である。

『登竜門』とは、広辞苑によれば、「竜門は中国の黄河中流の急流で、ここを登った鯉は竜になるといわれたことから」困難ではあるが、そこを突破すれば立身出世ができる関門」と書かれている。昭和四十一年に旧校舎玄関に揚げられた徳永隆寿校長書による『登竜門』は、現在の体育館入口のところに揚げられている。その板の裏には、

(清水均)

火ばら談義



仁礼小 和田哲郎

忙しい中にも……

新津朋典

毎日、忙しい日々が続いている。特に今年度は土日も無いくらい忙しい。とは言っても、土日の忙しさは、学校業務での忙しさではない。今年度、自分は息子(小四)の地域の少年野球で、保護者会の役員を引き受けてしまったからだ。

元々野球が好きで自分ではあったが、休日でも無く忙しい日々を送っている中で、嫌気がさしてくることもあった。しかし、よくよく考えてみると、自分達の子どもが世話になっているのであるから、それに対する貢献として、当然誰かがやらなくてはならない仕事である。また、この仕事の中で、多くの方々と出会えたことも大きな収穫であった。監督は、地域のチームを率いて二十数年にもなる方で、さすが子ども達への接し方、保護者への接し方等々、教員の自分よりはるかに「上手いなあ」と感じることも多い。また、他の保護者と接しながら、お互い保護者の立場で語り合い、様々な立場や考え方を理解できるようにになった。

四月、新年度が始まってからが大変だった。私の役は「事務局」という役だった。月齢のように、毎月の練習計画を監督や保護者会の会長と相談しながら作成する。練習試合や大会があると引率計画のプリントを作成し、配車計画を立てる。また、グラウンド貸与の申し込み等、事務的な仕事。更に、練習日には必ず出席し、チームの子ども達と共に汗を流す。他の保護者から苦情が来れば、その対処に当たることもある。これも「自分の息子が世話になっているチームのため」と我慢することも多

い。地域活動に関わりながら、避けようと思えば、避けられたり、苦労だつたりすることも多いが、様々な方あるいは地域の子ども達と出会う、「職場とはまた違った意味での勉強をさせてもらっている」と現在はお考えられている。

(小山小)

夢中になれるもの

瀧澤さつき

最近夢中になっている事のひとつに、籐(とう)工芸があります。籐でできたものといえば、バスケット、鉢のカバー、入浴時に使う脱衣かご等があります。レストランでナイフやフォークが入って行くかごも籐のものが多くです。私が籐に出会ったきっかけは一冊の本です。実家の母が「まり」作りを習い始め、色とりどりの手まりが並んでいるのを見てうらやましくなり、

私も何か作りたいと思いましたが。その時、「はじめての籐編み」という本を見つけて購入。籐製品は作りが良いものは値段も高いため、欲しいものが自分で作れるのならと、材料をそろえ、本を見ながら作品を作ってみました。みかんを入れるのにちょうど良い大きさのかごが出来ましたが、きれいな形に仕上げませんでした。

近くで偶然「籐工芸教室」の看板を見かけ、教室へ通うことになりました。自分の好きな日に、先生にはマンツーマンで教えていただけるということ、現在月二回程度、仕事が終わった日に通っています。籐製品といっても、小さなかごから、大きなものは家具まで様々です。また、材料も籐の太さ、使う部位等により、たくさん種類があります。そして、日本では栽培?されず、東南アジア方面から輸入された籐を材料として使用しています。

編み方の基本から教えていただき、小さなかごから作りてくれた。字の如く、和やかな顔で愛情溢れる優しい言葉を投げかけなさいという意味だが、どうも子どもの前に立つと子どもの欠点ばかり目に付き、叱ることが先で、なかなか誉めることができない。下手に誉めて上辺だけの誉め言葉になるのが怖かった。知らず知らずのうちに、子ども達の心を傷つけていたのではと、懸念の思いである。山本五十六さんの言葉に、言って聞かせ/やってみせ/やらせてみて/誉めてやらねば/人は動かじとあるが、つい日々の忙しさに、心の余裕さえなくなる。そんな中「お陽さまになって」という歌に出会え、自分を見つめ直す事ができた。今は、廊下を歩いたときに

お陽さま

根崎正一

どんな小さな道端の花も
お陽さまに守られて
けんめいに咲いている

科の先生から渡された曲の歌詞の一番である。私は、この詞の中の

君は冷たい言葉
ふきつけてはいないかい
人のこころ 無理やり
こじあけてはいないかい

君は冷たい言葉
ふきつけてはいないかい
人のこころ無理やり
こじあけてはいないかい

お陽さまになって
お陽さまになって
温かい心で
お陽さまになって
お陽さまになって
照らしたい

音楽会の合唱曲にと音楽専

を自分で、ドキッとした。今まで自分が子供たちに投げかけてきた言葉に対して、如何に優しさや心配りが足りなかったかを反省させられた。初めて小学校の教壇に立った時の校長先生が、事ある毎に『和顔愛語』という話をし

ました。籐は弾力があるので、水につけてやわらかくしてから使います。編んでいる途中に乾燥したり、丸みをつけたら、作業中は水に張ったバケツが欠かせません。籐を押さえる手に力が入ると、指の皮がむける事もあります。指の皮がむけると嬉しいですが、今まで作った作品の中で一番大変だったものは、脱衣かごです。失敗して、ほどいてのくり返しでした。

いつかは、家具を作りたいと夢を見る今日この頃です。(井上小)

編集後記

(仁礼小)

各校では、運動会や文化祭が無事終了したかと思えます。また、先生方におかれましては、教育課程研究協議会をはじめ各種研究会へ参加され、研修を積み重ね、実り多き秋を迎えておられることと思います。本号では、研修に関する内容を中心に編集させていただきます。

ご多用中、原稿依頼を快くお引き受け下さり、貴重な原稿をお寄せいただきました。深く感謝申し上げます。